

言語活動の充実を図った国語科の授業づくり（「読むこと」領域）

言語活動の充実は、今回の学習指導要領の改訂において各教科等を貫く重要な改善の視点である。

国語科においては、そのねらいを実現するために、学習指導要領の各領域の内容の(2)に例示したような言語活動を通して指導事項を指導することとしている。そのためには、「ここで音読する」「ここでは意見を発表する」といったばらばらな活動を位置づけるだけでは不十分である。すなわち、国語科における言語活動の充実のためには、単元の指導目標を達成するために、ふさわしい言語活動を適切に選択し、単元を貫いて位置づけることが求められるのである。（傍線引用者）

（『初等教育資料』2011.4月号 文科省教科調査官 水戸部修治）

これまでの単元構成・指導過程（2年物語教材「お手紙」を例に）

導入	展開	発展
<ul style="list-style-type: none"> 全文通読 初発の感想 学習課題 	<ul style="list-style-type: none"> 場面ごとに人物の心情を想像して読む。 会話に気をつけて音読する。 登場人物に手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 読後の感想 自由読書

問題点

- 書いたり読んだり、言語活動をちゃんとやっているのに、これではダメなの？
- これまでやってきた言語活動をパワーアップすればいいんじゃないの？
→ パワーアップ程度の改善では、身に付く力（実生活で生きてはたらく力）があまりに小さすぎる。
- 場面ごとに時間をかけて読んでいくと、学習意欲が減退しおもしろくなくなる。
- 自由読書は何のため？付けさせたい力が不明確（活動ありき、活動の一人歩き）

これからの単元構成・指導過程—その1—

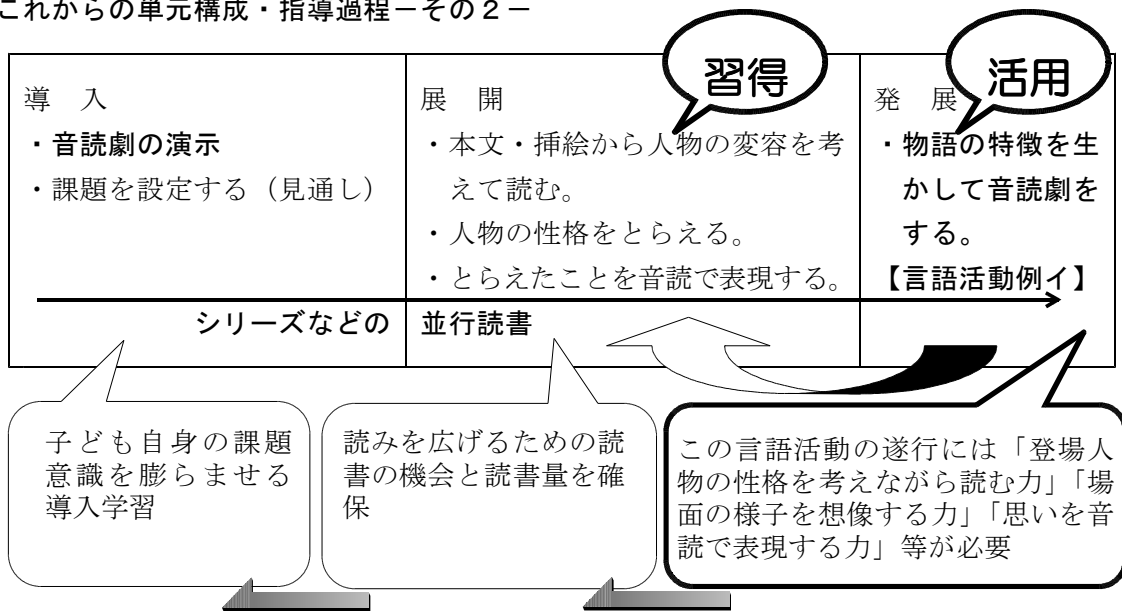
導入	展開	発展
<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせ（選書モデル） 読書・学習経験の想起 課題を設定する（見通し） 	<ul style="list-style-type: none"> ストーリー展開のおもしろさ、好きな場面や人物の行動を見つけて読む。 本や場面を選んだわけを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ本の好きなところを紹介する。 <p>【言語活動例オ】</p>
シリーズなどの	並行読書	

子ども自身の課題意識を膨らませる導入学習

読む能力の基盤としての選書の機会と読書量を確保

この言語活動の遂行には「本を選ぶ力」「好きなところを意識して読む力」「ストーリー全体を楽しむ力」等が必要

これからの単元構成・指導過程－その２－



言語活動の充実（国語科における）

||

単元の柱となる言語活動を位置づけて学習を展開させること

- ◆ 言語活動を位置づけた単元構想の手順
- その１ 単元で身に付けたい力を明らかにする。（これがないと、活動ありきとなる）
 - ☆ 年間の見通しの中で、子どもの実態から単元で取り上げる指導事項を確定
 - その２ その身に付けたい力を育成できる言語活動を確定する。
 - ☆ 身に付けたい力にぴったりの言語活動を選ぶ（「言語活動例」を手がかりに）
 - その３ その言語活動を遂行する上で必要な具体的能力を洗い出す。
 - ☆ 「その単元で重点的に指導するもの」
 - 「すでに身に付いていて活用するもの」
 - 「次単元以降で重点的に指導するもの」 に整理
 - その４ 洗い出した力を整理し、その力を身に付けられる指導過程を構想する。
 - ☆ 導入学習の工夫、並行読書する本の選定、ワークシートの開発